



平成 29 年 8 月 10 日

各 位

会 社 名 豊 商 事 株 式 会 社
 代表者の役職名 代表取締役社長 安 成 政 文
 (J A S D A Q ・ コード番号 8 7 4 7)
 問 合 せ 先 専務取締役管理本部長 多々良 孝之
 電 話 番 号 (0 3) 3 6 6 7 - 5 2 1 1

平成 30 年 3 月期第 1 四半期累計期間の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 30 年 3 月期第 1 四半期累計期間（平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日）の連結業績につきましては現在集計中ですが、決算の概要がまとまりましたので速報値としてお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みですので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期第 1 四半期累計期間の業績速報値及び業績の差異

連結

(単位：百万円)

| | 営業収益 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益 |
|--|-------|------|------|--------------------------|
| 当第 1 四半期連結累計期間速報値 (平成 30 年 3 月期第 1 四半期累計期間) (A) | 783 | △221 | △201 | △212 |
| 前 年 同 期 実 績 (平成 29 年 3 月期第 1 四半期累計期間) (B) | 863 | △191 | △138 | △118 |
| 増 減 額 (A - B) | △79 | △29 | △63 | △93 |
| 増 減 率 (%) | △9.2 | — | — | — |
| (参考) 平成 29 年 3 月期実績 | 3,536 | △470 | △384 | △441 |

2. 差異が生じた理由

連結業績見込み

平成 30 年 3 月期第 1 四半期累計期間の我が国経済は、日本銀行による金融緩和政策が継続される中、堅調な生産活動及び個人消費を基軸として緩やかに回復し、先行きも底堅い推移となる見通しであります。

一方、世界経済は、米国では政治が停滞気味の中、金融政策は追加利上げを決定し、好調な民間需要による下支えにより緩やかながら景気拡大を継続しております。中国では過剰設備の調整圧力が重石になるものの、インフラ投資など財政による下支えにより緩やかな減速に留まっており、世界経済全体では緩やかな回復を維持する見込みであります。

このような環境のもとで、商品先物取引の総売買高は 439 千枚(前年同期比 12.5%減)及び金融商品取引の総売買高は 496 千枚(前年同期比 23.3%減)となり、受取手数料は 740 百万円(前年同期比 19.6%減)、売買損益は 43 百万円の利益(前年同期は 57 百万円の損失)となりました。以上の結果、営業収益 783 百万円(前年同期比 9.2%減)、経常損失 201 百万円(前年同期は 138 百万円の経常損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失 212 百万円(前年同期は 118 百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)を計上する見込みであります。

以 上